

教育評論家・尾木直樹さん講演会詳報

教育は未来の投資

経済的理由で塾に行けない子どもたちの学習支援を続けているNPO法人エンカレッジ(坂崎紀理理事長)は27日夜、「尾木ママ」の愛称で親しまれる教育評論家・尾木直樹さんを招いた講演会を沖縄市民会館で開いた。基調講演で尾木さんは、経済的格差に関係なく自己実現できる社会の実現を強調。PT



つらさへの共感を訴える教育評論家の尾木直樹さん＝27日、沖縄市民会館

学費無償にすべき

尾木 直樹さん

キーワードは「教育は未来への投資」。学費を無償にし、国が教育に責任を持つことが国の生命線になる。今沖縄の子どもの救済NPOの活動と同時に「やあ、一人でもつらい思いをする子どもを救済しよう」という強い意志を持たなくては

Aや経済団体などの代表らと交えたパネルディスカッションでは、厳しい環境にある子どもを幼少期から支援する必要性や、親の経済事情に左右されない教育環境の必要性について意見を交わし、尾木さんは「教育は未来への投資と呼び掛けた。登壇者の発言要旨を紹介する。

パネリスト

- 尾木直樹さん(教育評論家)
- 奥座初美さん(NPO法人こども家庭リソースセンター沖縄代表)
- 大田守さん(前県PTA連合会会長)
- 宮平貴裕さん(青年会議所沖縄ブロック協議会会長)
- 佐藤ひろこさん(琉球新報社社会部記者)
- 坂崎紀さん(NPO法人エンカレッジ理事長)

コーディネーター

- 親川修さん(NPO法人パリアフリーネットワーク会議代表)



まずは保育保障から 奥座 初美さん



ファミリーサポートは地域の中に温かい絆をつくるのが目的だが、有償のサポートを受けられない人のために「一だチケット」を発行し、年間15〜20時間支援している。私たちがとっている就学援助だと思ふ。幼子を通れた妊婦が働かざるを得ないなど、厳しい実例を見てきた。貧困の連鎖がある。助けほしいというSOSが毎日のように届く。教育は保育から保障しないとけない。

認めることが成長に 坂 晴紀さん



子どもにとって学業での夢や希望は成績を上げたり、入試で合格したりすること。勉強し成績を上げて認められ認められることで心が成長する。学力は子どもの自信を測る目安。人がしっかりと関われば子どもはどんどん伸びる。NPOエンカレッジが豊かない社会が私の目標。社会が現状を理解し、つらい状況にある子どもに光を当てなくてはならない。そういう認識で皆で学力向上したい。

関わり方が大切 大田 守さん



PTAは最も大きな社会教育団体で、一番の目的は将来の地域を良くする人材を育成することだ。みんな自分の地域の環境を良くするために参加している。その純粋な活動が人材育成につながる。塾の経営者が学習支援しているという動きは大きい。われわれがどう関わるかを考えないといけない。明治維新時代の政府は、3割を教育予算にかけた。今の日本をつくらなかったそれを今やるべきだと思ふ。

子どもとの関わりで大切なのが理由を聞く。言葉を持って話を重ねられる状況をつくること。共感してほしい。昔の日本は農耕社会で地域全体で子育てしたが、そのような状況は沖縄もかつて急速になくなっている。核家族の中で子どもを育ててはかきまわす理由を聞いて、はほとんど成立してない。感謝やいたわりの心遣い。感謝やいたわりの心遣い。感謝やいたわりの心遣い。

尾木さん基調講演要旨

尾木さんは、経済的格差に関係なく自己実現できる社会の実現を強調。PTAや経済団体などの代表らと交えたパネルディスカッションでは、厳しい環境にある子どもを幼少期から支援する必要性や、親の経済事情に左右されない教育環境の必要性について意見を交わし、尾木さんは「教育は未来への投資と呼び掛けた。登壇者の発言要旨を紹介する。

福祉で親子支援を 佐藤 ひろこさん



沖縄は厳しい経済・家庭事情の下、学ぶ機会がない子どもが全国に比べて多い。学びを支える就学援助制度では市町村格差も生じている。家庭や地域の教育力も低下している中、社会のひずみで苦しむ子どもを支えるには教育と福祉の融合が必要だ。親と子どもを支援できる福祉専門職を学校現場に配置し、福祉の支援に繋がらなければならない。経済的格差による教育格差を断念せず、済む環境整備が今こそ大切だ。

当事者意識が必要 宮平 貴裕さん



これからは利益主義だけでなく社会から共感される会社、顧客だけでなく従業員からも共感される会社が生き残る。これからの沖縄は、女性が働きやすく、子育てや教育に時間を注げる会社をつくらなければならない。「共感がキーワードになる。当事者意識を持つ、自分のできることで努力する必要がある。女性の置かれている状況は厳しい。弱者に手厚くできる政治の仕組みが必要だ。

はぐくむ